

鳥羽市観光基本計画

— 資料編 —

1. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 名簿…………… 資料編- 1
2. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 部会名簿…………… 資料編- 2
3. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 会議開催状況…………… 資料編- 3
4. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 各部会での検討経緯…………… 資料編- 4
5. 鳥羽市観光統計資料…………… 資料編-29
6. 鳥羽市の祭・イベント一覧…………… 資料編-32

別冊 鳥羽の観光史年表

1. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 名簿

<委員>

所属	役職	氏名
立教大学観光学部交流文化学科	教授	◎ 村上 和夫
鳥羽市観光協会	副会長	○ 奥野 和宏
鳥羽市観光協会	専務理事	小見山 健司
鳥羽商工会議所	専務理事	清水 清嗣
鳥羽市旅館組合連絡協議会	会長	谷口 徹
鳥羽観光施設連合会	会長	○ 滋野 峻
鳥羽市温泉振興会	会長	吉川 勝也
鳥羽商店会協同組合	理事長	吉水 理裕
鳥羽料飲組合	組合長	中村 賢司
NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーズセンター	事務局長	野口 あゆみ
鳥羽ガイドボランティアの会	会長	濱口 巖
島の旅社推進協議会	事務局長代理	山本 加奈子
うめの薈会	会長	○ 江崎 貴久
社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	事務局長	水口 良之
近畿日本鉄道株式会社伊勢志摩事業推進部	部長 課長	山本 潤(～6/25) 新井 英明(6/25～)
東海旅客鉄道株式会社伊勢市駅	駅長	小倉 清
中部国際空港株式会社営業本部	営業部長	尾頭 嘉明
株式会社アイティービー	プロデューサー 執行役員	河内 久和(～9/7) 奥山 正彦(9/7～)
株式会社リクルート	東海じゃらん副編集長	小田 展正

◎…会長 ○…副会長

<アドバイザー>

所属	役職	氏名
三重県観光局観光・交流室	室長	鈴木 伸幸
国土交通省中部運輸局企画観光部観光地域振興課	課長	斉藤 祥一
環境省中部地方環境事務所	統括自然保護企画官	常富 豊
立教大学観光学部 (菅原由美子観光計画研究所主宰)	兼任講師	菅原 由美子

<顧問>

所属	役職	氏名
鳥羽商工会議所	会頭	中村 幸昭
鳥羽市観光協会	会長	寺田 直喜

<事務局>

所属	役職	氏名
鳥羽市役所	副市長	奥野 元洋
鳥羽市役所農水商工観光課	課長	山本 実
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	室長	下村 悦生
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	主査	浜口 ひろ江
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	事務職員	宮本 益仁
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	事務職員	西口 大志
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	事務職員	天田 雄也
鳥羽市役所農水商工観光課観光戦略室	地域再生マネージャー	中川 勇
鳥羽市役所企画財政課	課長	木下 憲一
鳥羽市役所建設課	課長	片岡 直博

2. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 部会名簿

<鳥羽のイメージ戦略部会>

所属	役職	氏名
鳥羽市観光協会	副会長	○ 奥野 和宏
鳥羽市旅館組合連絡協議会	会長	谷口 徹
島の旅社推進協議会	事務局長代理	山本 加奈子
近畿日本鉄道株式会社伊勢志摩事業推進部	部長 課長	山本 潤(~6/25) 新井 英明(6/25~)
東海旅客鉄道株式会社伊勢市駅	駅長	小倉 清
株式会社アイティービー	プロデューサー 執行役員	河内 久和(~9/7) 奥山 正彦(9/7~)

<観光地の機能向上戦略部会>

所属	役職	氏名
鳥羽商工会議所	専務理事	清水 清嗣
鳥羽観光施設連合会	会長	○ 滋野 峻
NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	事務局長	野口 あゆみ
鳥羽ガイドボランティアの会	会長	濱口 巖
中部国際空港株式会社営業本部	部長	尾藤 嘉明
株式会社リクルート	東海じゃらん副編集長	小田 展正

<やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会>

所属	役職	氏名
鳥羽市観光協会	専務理事	小見山 健司
鳥羽市温泉振興会	会長	吉川 勝也
鳥羽商店会協同組合	理事長	吉水 理裕
鳥羽料飲組合	組合長	中村 賢司
うめの蕾会	会長	○ 江崎 貴久
社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構	事務局長	水口 良之

○…部会長

3. 鳥羽市観光基本計画策定委員会 会議開催状況

平成19年5月18日(金)	第1回 鳥羽市観光基本計画策定委員会
5月24日(木)	第1回 鳥羽のイメージ戦略部会
5月25日(金)	第1回 観光地の機能向上戦略部会
6月14日(木)	第1回 やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会
6月15日(金)	第2回 鳥羽のイメージ戦略部会
7月19日(木)	第2回 観光地の機能向上戦略部会
7月20日(金)	第3回 鳥羽のイメージ戦略部会
	第2回 やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会
8月22日(水)	第2回 鳥羽市観光基本計画策定委員会
9月6日(木)	第3回 観光地の機能向上戦略部会
9月7日(金)	第4回 鳥羽のイメージ戦略部会
	第3回 やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会
10月11日(木)	第3回 鳥羽市観光基本計画策定委員会



鳥羽のイメージ戦略部会

における協議内容・意見

イメージ部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

1. 鳥羽観光への期待と思い

基本計画への期待

イメージ戦略の検討の前に、まず基本計画策定に対する思いを自由に語り合った。

- 地域の人々が元気になる源、取り組みのグランドデザインとなるように
 - 数十年先を見据え、次世代に継承できる夢
 - とても小さなことでも百年の計で、継続して取り組むことが重要（何かにかたわり、多少否定されても継続していく努力の先に何か魅力が明らかになってくるのではないか）。取り組みの“ブレ”が起きないようにするための基本戦略
 - 動きながら考えていくというような部分もあって良い。
 - 入湯税の導入により、来訪者数が明確になる。数値目標の設定や達成度のチェックも可能となる。
-

鳥羽観光のあるべき方向

- 「宿屋＝テーマパーク(1軒の宿泊施設で内部完結)」⇒「地域全体が宿屋」(宿泊施設は部屋、地域全体で滞在できる魅力を生み出す)
- “まち”をつくっていくという考え方が重要
- 地域住民が地域のことを知らない。日常の何気ない風景や風習のなかに魅力があり、地域のヒトがその成り立ちや文化を知ることがまず重要
- 金銭消費型施設(有料施設)は充実 ⇒ 今後は時間消費型へ
- 海産物を活かした地産地消の魅力を訴求力として活かす
- 現存する資源を磨き上げることが重要
- 一部のヒトだけがアクションを起こしても限界がある。民間、地域住民、行政が同じ方向を向いて、それぞれの取り組みが大きくなうねりとなるように
- 個性的な島の集積といった意味で、ハワイ諸島の関係がひとつの手本

2. 鳥羽の観光イメージの現況と問題点

(1) 鳥羽観光のイメージとして活かすべき、魅力・資源

- 海、港(大型客船の寄港)、島
- その中でも島に特徴がある。答志島、神島は最高の財産
- 漁師、海女さん、海女小屋
- 昔ながらの素朴な暮らしと一体となっていることが特徴
- 日常の何気ない風景や風習、身近なものに潜在する素晴らしい魅力
- 真珠(ただし志摩も含めた広域のイメージ)
- 海の幸
- 一言で言えば「風光明媚で美味しいものが食べられる“贅沢な”まち」

(2) 鳥羽のイメージ戦略の現状と問題点

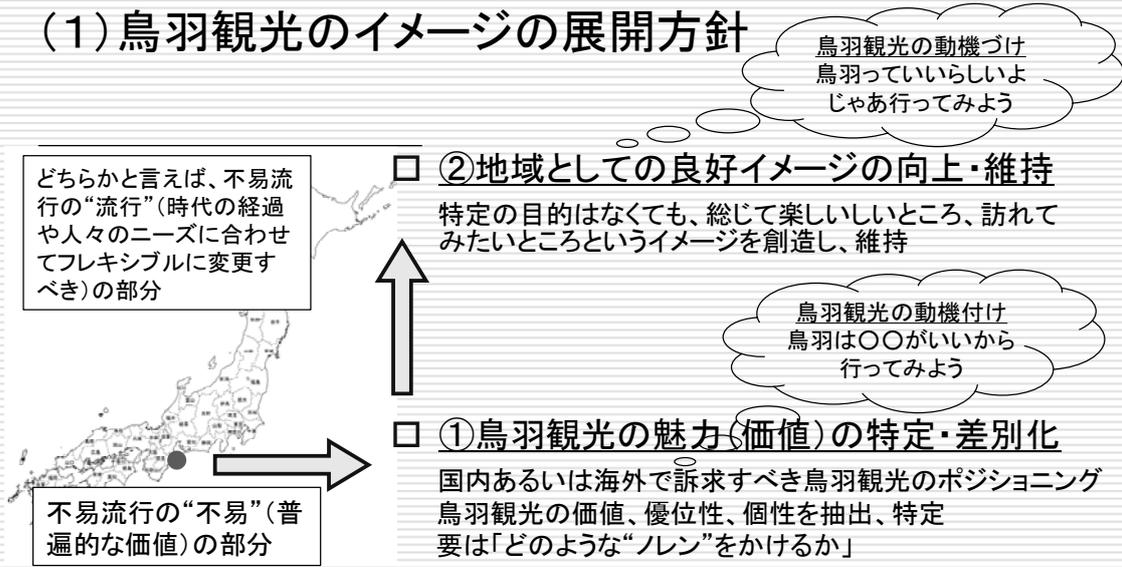
- 伊勢神宮参拝の宿泊滞在拠点としてのイメージ(肯定し活かすべき)
- 統一のイメージがない。
 - ・キャッチコピーやロゴがない。
 - ・多様な主体、住民等が共感を持てるような地域イメージが必ずしも定まっていない。
 - ・これぞ鳥羽という写真、シーンが定まっていない。
- 伊勢や志摩に比べるとイメージが希薄である。
 - ・特に志摩地域との違いが出しにくい。
- 卓越した風景や、真珠が“やすっぽく”扱われているようなところも見受けられる。

(3) 鳥羽観光のポスターからの分析

時代を遡って、近畿日本鉄道、伊勢志摩国立公園協会、鳥羽市が作成した観光ポスター収集・分析

3. 鳥羽観光のイメージ戦略の基本的考え方

(1) 鳥羽観光のイメージの展開方針



イメージ戦略の基礎 [第2回部会:村上・安島両先生からの指摘事項]

- イメージを体験した人がどういうメリットを得られるのかを明確にする。例えば、「鳥羽の海に来た私は他の人より一歩前に進んでいる」というメリットが必要。
 - 得られる印象と、イメージとのずれを逐次調整する作業が必要。
 - イメージを良好なものにしていくため、次の3点が考えられる。
 - ①身体的・普遍的に良好なイメージを創出
 - ②良好なイメージが永続するように古典化
 - ③観光客の“飽き”に対応して、次々に新鮮なイメージ創出
- イメージは消費される(使われて古くなる)ため、新しいまちづくり・観光地づくりのコンセプトを生み出していくことが必要。行ってみたいと思う、土産話をする価値のあるような新しさを付け加えていく。

(2)鳥羽観光のポジショニングとイメージづくりの方向

全国の中でのポジショニング

- 伊勢志摩地域の重要拠点として
伊勢・鳥羽・志摩地域の宿泊拠点としての位置づけ
伊勢と志摩の中間に位置することを活かす
- 国際観光文化都市として
全国12都市のひとつとしての位置づけ
(別府市、伊東市、熱海市、奈良市、京都市、松江市、芦屋市、松山市、軽井沢町、長崎市、日光市、鳥羽市)

伊勢・鳥羽・志摩地域の中でのポジショニング

- 資源条件、景観条件からのポジション
 - ・ 特急停車駅から徒歩で海にアクセスできる場所
 - そして駅から海が見えるのは鳥羽“だけ”
 - 観光における役割からのポジション
 - ・ 伊勢神宮参拝客の“宿泊滞在拠点”
 - 古くから多様な客層が訪れ、宿泊滞在・交流
 - ただし、昨今は宿泊自体が観光の主目的のひとつになりつつある。
 - ・ 鳥羽は、伊勢・鳥羽・志摩地域のハブ
 - ・ 多様な魅力（観光施設・資源が多様）や懐の深さが特徴
 - 文化や様式からみたポジション
 - 伊勢 : 神宮から発信される木の文化、和の情緒
 - 志摩 : 奥座敷、上質なサービス、ヨーロッパスタイル
 - 鳥羽 : 上記の間で鮮明な文化を打ち出す必要がある。
- ⇒例えて言えばイメージづくりの“原作”は既に伊勢にある。そこに鳥羽ならではのストーリー性を如何に“脚本”化していくかが重要。

(3) 鳥羽観光で重視すべき キーイメージ

ポスターの分析より、伊勢や志摩に比較して鳥羽で色濃いイメージ、要素として以下を抽出

■ キーワードは、「海と暮らす“人”」

- 漁船・漁港の賑わい
- 生活感あふれた漁村の風情
- 漁師さんの年季のはいった顔、海女さんの笑顔のすばらしさ
 - 三島由紀夫曰く「神島の人顔がいい」
- 美しい風景（離島や三ツ島等）の中で営まれる地域の人々の暮らしのドラマ
 - 寝屋子制度等
- 「海」「港」「島」＋“人”
- 宿泊施設等で豊かなホスピタリティを提供してくれる地域の“人”
- 鳥羽少年探偵団等とも関連した“人間観光”

4. 観光振興の取り組み方策

○情報発信・プロモーションに関する方策

■ 情報発信・PRの方法

- ・風景とそこで暮らしを営む“人”をセットにした写真でPR
- ・鳥羽の全ての漁港・漁村を連携して売り出す
- ・地域の“人”には当たり前の風景を見直し、PR

■ 情報発信・PRの媒体

- ・ポスター・パンフレット・情報誌等も連携・共同で作成したり、デザインをあわせて作成
- ・総合的な観光のホームページ
- ・DVD等も作成すると効果的
 - ・アイティービー(ケーブルテレビ)では、全国に向け、映像を駆使した伊勢・鳥羽・志摩地域の総合的な観光ポータルサイトの準備を進めており、今秋には開設予定である。その中でもターゲット別にコース等のプランニングに活用できるような内容にしたい。
 - ・「ミューゼ伊勢志摩」(近鉄情報誌)はリピーター向けに、こだわった内容を掲載している。

■ 統一して用いるロゴ、キャッチコピー等の設定

- ・キャッチコピーについては、方言を有効活用

■ シンボルフोट(これぞ鳥羽という写真)の設定

- ・こだわって使い続けることが重要。

■ ブランド力を高めるための良い施設、良い資源を集中的に情報発信

- ・努力する事業者や市民に支援し、ブランドを引っ張り上げる戦略が重要

■ エリア別の情報発信・プロモーション

- 首都圏等全国向けについては「伊勢神宮」(その宿泊滞在拠点)
 - ・伊勢神宮への来訪者を鳥羽に誘致することが重要
 - ・発信するイメージ・情報も、「伊勢神宮」、当面は「遷宮」
- 関西・東海地域、リピーター向け
 - ・伊勢・鳥羽・志摩のエリアイメージやエリア情報が重要
 - ・隠れた情報、通情報、こだわりの情報等

○ホスピタリティ・受け入れ態勢に関する方策

- ホスピタリティ豊かな“人”によるもてなし
 - ・「鳥羽に来たら、いい“人”と巡り会って元気になって帰れる」といった地域イメージに展開するため、漁師や海女さんを観光資源化
 - ・鳥羽ガイドボランティアの会、NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター、海島遊民くらぶ、島の旅社など
やさしい旅、楽しいランドツアーを担う“人”の育成
- 食の魅力に磨きをかける
 - ・地域の海産物の提供、新鮮・安全・健康な食の提供で、良好なイメージを保続
 - ・本物(地の物)へのこだわり

○地域住民のまちづくりとの協働の必要性

- 地域の“人”、何気ない風景や日常の暮らしをキーイメージとすることは、これらを観光資源とすることに他ならない。このため、
 - ・地域の“人”が誇りを持って、生き生きと暮らす状況
 - ・地域住民の観光への理解
 を醸成していく必要がある。
- ホスピタリティ豊かな“人”を魅力とし、地の物(本物)を提供するためには、漁業者や商業者等との連携も必要となる。
- 鳥羽学と人材育成を同時並行で進める。現在実施している地球塾をステップアップさせて、御木本隆三(幸吉の長男)のアカデミーを開設したらどうか

5. 部会の延長として早期に着手すべき取組

■ 誘客宣伝用メディアの点検と観光ポスター作成

- ・再度過去に使われた観光パンフレット・観光ポスターを収集し、内容を調べてみよう。
- ・観光ガイドブック、旅行雑誌等に掲載された鳥羽の記事を調べてみよう。
雑誌「伊勢志摩(伊勢人)」など
- ・ポスターについては、鳥羽のイメージに欠かせない要素として本部会で抽出した“人”をテーマにつくりたい。食の魅力を売り出すにしても、作り手の顔や漁師の顔を通して、絶品の素材や料理をイメージさせていく。こんな人に会いたいとイメージが湧くものにしたい。
- ・海外の宿泊施設のパンフレットでは、ベッドメイキングをする人の顔を使っている例がある。

■ ブランド化したい資源の特定と、そのためのストーリーづくり



観光地の機能向上戦略部会

における協議内容・意見

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

1. 鳥羽観光の魅力と問題点

(1) 鳥羽観光の魅力 ～資源評価～

- 離島(文化)、漁師・海女(文化) ⇒ 魅力が知られていない
答志島の路地裏散策等 長期滞在につながっていない
神島のカルスト地形や野生生物
 - 海の景観、自然＋人の暮らしや生業
 - 宿泊収容力・宿泊施設の多種多様性(量拡大に対応可)
⇒ 一部老朽化やリニューアルの遅れも
 - 豊かな海産物等食の資源 ⇒ 「鳥羽なら“これ”」という代表的な食
や土産品がない
 - 鳥羽湾、鳥羽港、港町 ⇒ 鉄道駅に港町らしさがない
 - 水族館や温泉等家族で楽しめる施設が豊富
-

(2) 鳥羽観光の強み

- 国際観光文化都市
- 歴史文化の厚み(志摩地域との差別化)
- 水族館、ミキモト、志摩マリンレジャーといった強力な集客力をもつ観光施設の存在
 - ・施設相互の連携(施設連合会の存在、共通チケット等)
- いくつかのエリアに分かれた観光＋宿泊滞在拠点が、緩やかに連携してひとつの観光地を形成
- 精力的に取り組んでいる観光ボランティアガイドの存在
 - ・鳥羽ガイドボランティアの会の立ち上げのねらいは、ふるさとを自慢できる子供達を育てることであった。

(3) 鳥羽観光の弱み・問題点

- 大規模集客施設への依存体質
- 駅周辺の景観、賑わいの乏しさ
- 鉄道駅からの港等へのアクセスがわかりにくい(道に迷っている人が少なくない)。
- 各ホテル・旅館での宿泊滞在が中心で、街としての魅力が脆弱。特に街の夜の魅力が乏しい。
- 食が磨かれていない。特に宿泊施設では、「朝の食事」にほとんど気が使われていない。
- 情報発信が少ない(魅力的に映るのに、旅行動の実践段階で動機づけが弱い)。

2. 鳥羽観光の機能向上の基本的考え方

(1) 機能向上に向けた方針

- 歴史や文化を活かした奥行きのある観光地形成
 - ・街なか、漁港漁村、離島等の資源を活かし、散策等により、楽しい時間消費が可能な魅力づくり
- (鳥羽エコミュージアム事業の趣旨)

(2) 機能向上とターゲットに関する方針

- 観光客の質の維持（むやみに量的拡大を追わない）
- ステータスを感じる観光地、行ってきたことを家族や知人に自慢できるような観光地でありたい。そのためには、ターゲットとなる客層は下げたくない。

(3) 取り組み方針

- 関係者をあげて徹底的かつ継続して取り組む。
 - ・小さなことでも徹底すると話題性がでて、情報発信力が高まる(マスメディアで取り上げられるようになる)
 - ・とことんやりきる気構えを持つ。
 - ・遷宮効果に頼ることなく、鳥羽の魅力を高めるべく継続して取り組む。
- 多様な産業の連携
 - ・観光施設と漁業者、料飲店、商業者等が連携
- 市民を巻き込んだ「観光まちづくり」として取り組む。
 - ・観光資源＝住む人にとっての誇りであり、宝であるという考えが基本
 - ・観光への取り組みに関する観光事業者と市民の温度差を解消
 - ・バリアフリーツアーセンターの取組、CANバス等の運行は、観光への取組が結果的に市民の福祉レベルやバリアフリー環境を高めることにつながっているといたことを丁寧に市民に伝えていくことも必要ではないか。
 - ・また災害時に宿泊施設が整っていることが、避難所や食糧の確保といった点も市民にとっては他にはないメリットと考えられる。

3. 観光振興の取り組み方策

(1) 鳥羽の観光資源に関する方策

- 離島観光のブランド化
- 鳥羽城趾、鳥羽小学校（建築文化的価値）の有効活用
- 観光資源周辺の環境の維持管理への取り組み
 - ・定期的な手入れ
 - ・日上山（鳥羽地区）、監的岬（神島）等
- 歴史文化資源周辺の解説サイン等の整備
 - ・古墳等
 - ・ガイドボランティア等による手づくり資料等の作成・配付の継続
- 観光資源＝住民にとってのクオリティ・オブ・ライフを実現する宝物であるという捉え方から資源を発掘

(2) 鳥羽での旅行動の豊かさ・楽しさに関する方策

- 鳥羽ならではの「食おこし」
 - ・伊勢エビ＋第二、第三の季節性のある食の育成
- 「道の駅」等のモノ、情報の拠点機能整備
 - ・確実に地元の物産を売っている所や地元の人が買いに来るところ
- 特産品開発
 - ・量産品は不要、ここでしか手に入らない土産品提供
 - ・ちりめん以外の土産物の開発・提供
- 「街あるき」の丁寧な商品化
 - ・街の土産品・飲食関係の店舗はそれぞれの特徴が語れるように個性化、魅力向上に取り組む。

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

 「海女文化」「漁師文化」の体験・交流機能

・食事どころ・民宿等

 ガイドツアーの提供

・伊勢志摩国立公園協会・自然ふれあい推進協議会による環境教育やエコツーリズム

・海島遊民くらぶ、島の旅社等のガイド組織の強化

・多様なニーズ、個別ニーズに対応するガイドボランティアによるもの

 利用層別の施設や体験機会提供

・初心者やファミリー向けの海釣り機会提供

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

(3) 鳥羽での旅行動の快適性に関する方策 市民レベルの身近な環境の改善・保全

・妙慶川親水プロムナードを活かすためにも、水質浄化や水辺の環境整備が求められる。

 鳥羽観光の玄関口である鳥羽駅周辺の良い景観形成 街並みの魅力向上

・路面店等の店舗デザインの改善促進

・文化性や感性、清潔感を感じられる店構えへ誘導

 鳥羽湾の景観の保全・活用 トイレ等の確保

・休憩施設(トイレ等)の整備

・民間のトイレ等を気軽に借りられるような制度の整備、登録者確保

 観光サイン等の充実

・目的となる観光施設への円滑な誘導を図るとともに、街の楽しい雰囲気演出

環境保全への先駆的な取組

- 宿泊施設で排出される廃棄物のリサイクルに市をあげて取り組む。
 - ・てんぷら油 ⇒ ディーゼルエンジン(既に一部旅館で実施)
 - ・残渣 ⇒ 肥料化
 - ・廃タオル等 ⇒ 繁忙期の臨時駐車場利用者に窓ふき用として提供
- エネルギーの効率的利用
 - ・各宿泊施設で個別に運行している送迎バスを共同化・巡回化
 - ・バイオマスエネルギー等の利用

(4) 鳥羽での宿泊施設の魅力に関する方策

- 宿泊施設の個性化 “縦並びのコップ”ではなく“横並びのコップ”に
- 宿泊設備への国際化への対応
 - ・必ずしも国際化＝洋風化することではない。和の文化を大切にすることが基本
- 国際観光文化都市をリードする国際グレードのホテル
- カジュアルな宿泊施設の立地促進
 - ・予約なしで気軽に泊まれる宿泊施設
- 泊食分離の普及
 - ・市街地の飲食施設の食の磨きにもつながる。
- 魅力ある朝食の提供
 - ・朝食にも地のものを使い、鳥羽らしい食事提供を
- 囲い込み型ではなく、オープンなプログラムの提供
 - ・地元の人や他の宿泊施設からでも利用できるようなイベントやプログラム提供例)二見の宿泊施設のジャズライブ、志摩で開催される二胡ライブ等
- 老朽化・陳腐化への適切な対応、廃業施設・空地等の有効活用

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

(5) 受け入れ態勢・ホスピタリティに関する方策**ホスピタリティの醸成・もてなしの表現**

- バリアフリー対応の一層の拡充
 - ・バリアフリースターセンターの先導により、地域全体で取り組みを普及
 - ・「車椅子の無料レンタル:どこでもチェア」等の継続的取り組み
- 市民総ガイドの推進
 - ・地元の人に鳥羽の魅力を周知
- ガイドボランティアの支援・後継者育成
 - ・ホテル・旅館等との連携
- 方言を積極的に使ったもてなし表現
- 訪日外国人旅行者の個人旅行に対応した情報案内機能整備
- 強引な客引き等の適正化

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

観光客の立場にたった情報発信

- 駅ボラ(鳥羽駅ボランティア事業)の復活・常設化
 - ・JR東海や近鉄との連携
- 観光マップ等による特徴ある飲食店・土産品店等商店街情報の提供(観光施設の差別化・個別化情報提供)
- ミニコミ誌やコミュニティ新聞等を媒体とした情報発信
- 交通事業者と連携した情報発信
 - ・中部国際空港等とも連携した広域的な情報提供、プロモーション
- 観光客が旅のプランニングに使えるような距離や時間が明示された資料の作成・提供

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

観光客の立場にたった受け入れの推進

- 観光客ニーズ(顧客満足度評価等)の反映
 - ・観光客の声をガイドボランティアが日誌記入し、観光協会等へ伝達
 - ・口コミ情報(観光客の感想・苦情等)の一元的収集・共有化
参考)伊勢志摩おもてなし向上協議会の取り組み
参考)中部国際空港のCS調査結果の共有化
- 市民レベルの取り組みの推進
 - ・市民の小さな取り組みを顕彰し、それを起点に普及・拡大
- 地産地消の推進:6次産業化(1次産業×2次産業×3次産業)

機能向上部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

観光資源

旅先行動

快適性・景観

宿泊施設

受入態勢

観光交通

(6) アクセス・移動条件に関する方策

- 魅力ある観光コースの開発・提供
 - ・日和山等へのハイキング・ガイドコース(バリアフリー対応)
 - ・複数の離島を周遊して楽しめる観光コースの提供(安楽島や小浜から半日程度のコース設定)
- 離島航路の利便性の向上
 - ・観光客の立場に立った運航ダイヤ
(特に神島へは昼から午後にかけて運航がほとんどない)
 - ・島と島を結ぶ運航ルートの導入検討
(休日を中心とした運航、シーズン運航など試験的に取り組む)
- 観光客の立場に立った市内観光拠点への2次交通整備
 - ・コミュニティバスの活用(福祉バスや通学バス等との複合利用)
 - ・乗合タクシー等の検討
 - ・現在、伊勢・二見・鳥羽で広域巡回バス「CANバス」を運営
- 中部国際空港と結ぶ連絡船の活用(または航路復活)
- JR東海における駅の格付の向上、特急運行のはたらきかけ

4. 部会の延長として早期に着手すべき取組

□ 鳥羽駅・駅ボランティア事業

- 改札口を出た後、どちらに向かえばよいか迷っている旅行者がいかわらず多い。適切な方向や、観光案内所や鳥羽ガイドボランティアセンター、伊勢志摩バリアフリーツアーセンター等への誘導する役割が必要。
- かつて(平成17年8月)実施していた鳥羽駅改札口での観光案内の復活。
- 当時の経験を活かして、伊勢志摩バリアフリーツアーセンター等が中心となって取り組むことが考えられる。

□ トイレボランティア事業

- 安心かつ快適にガイドツアーを催行する上で、公衆トイレの整備が十分ではないため、民間事業者や市民の好意で補完



やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会 における協議内容・意見

感幸部会

現状評価

基本的考え方

取り組み方策

具体的事業

1. 部会名称について

事務局側で提案した「やさしい観光地づくり戦略部会」という部会名称、および議論するテーマについて、今後鳥羽観光でめざすべき方向と相俟って熱い議論があった。議論の要点は以下のとおりである。

- ・「やさしい」とは“人”に対してだけではない。自然、文化、地域（環境）など全てに対して「やさしく」ある必要がある。
- ・我々の生活する場が成り立ってこそ、観光地としても魅力あるものとなる。また「やさしい観光地」は全国各地で目指されている。こうした点から「やさしい鳥羽づくり」の方が適切ではないか。
- ・本部会で議論すべき「持続的な発展」の「発展」とは何を基準とした発展か。また現状の観光資源、現状の魅力をベースに考えていってよいか。もっと革新的な魅力を創造していくことが重要ではないか。
- ・観光のよろこびは、鳥羽を訪れる観光客だけが得るものではない。望むべき方向は、観光を通じて市民を含めた受入側全てが「幸せを感じる」ようにしていくこと。

以上より、部会名称を「やさしい感幸の鳥羽づくり戦略部会」としてスタートする。

2. 鳥羽観光の魅力と問題点

(1) 魅力（現状でやさしさ・幸せを感じられること）

[観光客にとって]

- 地元の人に声をかけられる
- 家族が幸せや感動を共有できる(真珠婚、離島体験)

[受入れ側にとって]

- お客さんが感動してくれる
- お客さんとの間に絆を感じる
- 仕事にやりがいを感じる・誇りを持てる

(2) 問題点・課題

□ 商店等の接客態度・サービスに問題がある

- 無愛想な殿様商売をしている店もある
- クレームへの対応が下手で、お客さんを怒らせてしまう
- 来訪者が商店街に立寄ることが少ない

□ 観光客のニーズに対応できていない

- 食べきれない料理はお客さんのストレスになり、環境にもやさしくない
- お客さんとの間に感覚的なずれがある。お客さんの目線に立っていない

- 食に対する信頼性・ルールが確立されていない
 - 地場産ではない食材がきちんと説明されずに提供される
 - 禁漁時期にも出回り、資源保護ができていない

- バリアフリーに十分対応できていない
 - バリアフリーに対応した施設はまだ少ない
 - 健康な人にうまく利用されてしまっている
 - ハード先行になっている

- 一部旅館や民宿の経営は厳しい状況に置かれている
 - 危機感や当事者意識が不足

(3) 現状の取り組み

- クレームへの対応
 - 行政や観光協会からのクレームのフィードバック
 - 伊勢志摩広域サイト、若女将の会におけるクレームの共有

- 障がい者の受入れ
 - 伊勢志摩バリアフリーツアーセンターの取り組み
 - 伊勢志摩広域での透析患者の受入れの試行

- 外国人の受入れ
 - 若女将の会作成の英語版飲食マップ

3. やさしい感幸の鳥羽づくりの基本的考え方

(1) 基本方針

皆が幸せを感じる、やさしい鳥羽

- 観光客に対してやさしいだけでなく、受け入れる側も幸せを感じることができ、環境や地域にもやさしいまちを目指す
- 全国どこの観光地でもできることではなく、鳥羽にしかできないことに取り組み、オンリーワンの鳥羽を目指す

訪れた人に本物の感動を与える鳥羽

- 鳥羽の目指す方向は、オールラウンドでも横並びでもない。感動を味わってもらうことをめざすのであれば、特化していく必要がある。
- 宿泊施設の満足度でいえば、フロントマンがフロント業務だけをやっていただけでは感動は与えられない。同様に宿泊施設がそこだけの受け入れをしていたのでは感動を与えられない(地域全体の受け入れを考えていくべき)

(2) 取り組み方針

- 観光業者だけでなく商店や一般市民も観光に参加する(市民は楽しみながら、プロは責任を持って取り組む)。
- ハード面だけでバリアフリーに対応するのではなく、人が声をかけたり手助けをするソフトの取り組みが大切である。
- バリアフリーと言い過ぎない。弱者を特別扱いするのではなく自然な形で、すべての人にやさしい取り組みを進める。
- 個々に対応できる人を育てていく必要がある。
- 補完し合いながら地域全体で水準を高めていく。
- 実際に取り組むにあたって、きちんとルールと仕組みを整える。

(1) ホスピタリティの向上に関する方策

① 接客サービスのスキルアップ・意識改革

- クレームは迅速・丁寧な対応でプラスに変える
- お客さんとの言葉のキャッチボールを心がける
- プロの検定“鳥羽評定”

② 個々のニーズに対応したサービスの提供

- 個々に対応できるサービスのあり方を検討する(食べ切れる量の食事、カロリー表示の仕方)
- 過剰なサービスよりも本当に必要なサービスを提供する
- お客様の目的を見極める

感幸部会	現状評価	基本的考え方	取り組み方策	具体的事業
ホスピタリティ向上	市民の参加	商業とのリンク	その他	

③信頼される食の提供

- 食材の産地を明確にする(地場産の食材は限定商品として提供し、それ以外は価格や味で差別化する)
- 禁漁時期は、食材を使う側も買わないという意識を徹底する
- 豪華ではなくても地元で獲れる美味しい食材を掘り起こす

④ソフトを中心としたバリアフリーへの対応

- ハードの対応よりもソフト(人)の対応を進める
- どういう対応ができるかという情報を提供する
- バリアフリーに対応しない旅館も含め(かまちを上げる文化、情緒性も大事)、地域全体で補い合って対応する

その他駐車場等の料金徴収のあり方にも意見が出された。

感幸部会	現状評価	基本的考え方	取り組み方策	具体的事業
ホスピタリティ向上	市民の参加	商業とのリンク	その他	

(2)市民の参加に関する方策

①市民によるおもてなしの啓発・実践

- 一般の市民が来訪者を笑顔で迎えるようにする
- 挨拶や声をかけることができる人を育てる(市民向けワンポイントレッスンをケーブルテレビで放映)
- ガイドという形に限らず、自然に地元の人と会話ができる仕組みをつくる(名物おじいちゃん、名物おばあちゃんの紹介)

②おふくろ弁当の開発・提供

- 地元の主婦等による「おふくろの味」の弁当を開発・提供する
- 駅や無料休憩所等で販売する

感幸部会	現状評価	基本的考え方	取り組み方策	具体的事業
ホスピタリティ向上	市民の参加	商業とのリンク	その他	

(3) 商業と観光の連携に関する方策

① 来訪者をターゲットにした商店の魅力づくり

- “プロの料理人に選ばれる食材”としてPRする
- 空き店舗を活用して、各店舗が連携して取り組む

② 屋号弁当の開発・提供

- 旅館や飲食店による屋号の入った弁当を開発・提供する
- 住民のアンケートによる評価に基づいて商品化する
- 店の情報や季節の便り(違う季節の情報)を入れて、再訪につなげる
- 屋号弁当の規定(地元の食材を使う等)や、ルール(買い取りや販売方法等)をつくる

感幸部会	現状評価	基本的考え方	取り組み方策	具体的事業
ホスピタリティ向上	市民の参加	商業とのリンク	その他	

(4) その他

① 海の博物館の有効活用

- 官民による利用活性化への梃子入れ
- 2次交通の提供

② 地域の景観・外観イメージの統一

- 地域毎に宿泊施設、商店(例えば牡蠣商店)等の外観イメージの統一化をはかる
(行政による補助なども考えられないか)

5. 部会の延長として早期に着手すべき取組

「鳥羽弁当」の開発・提供

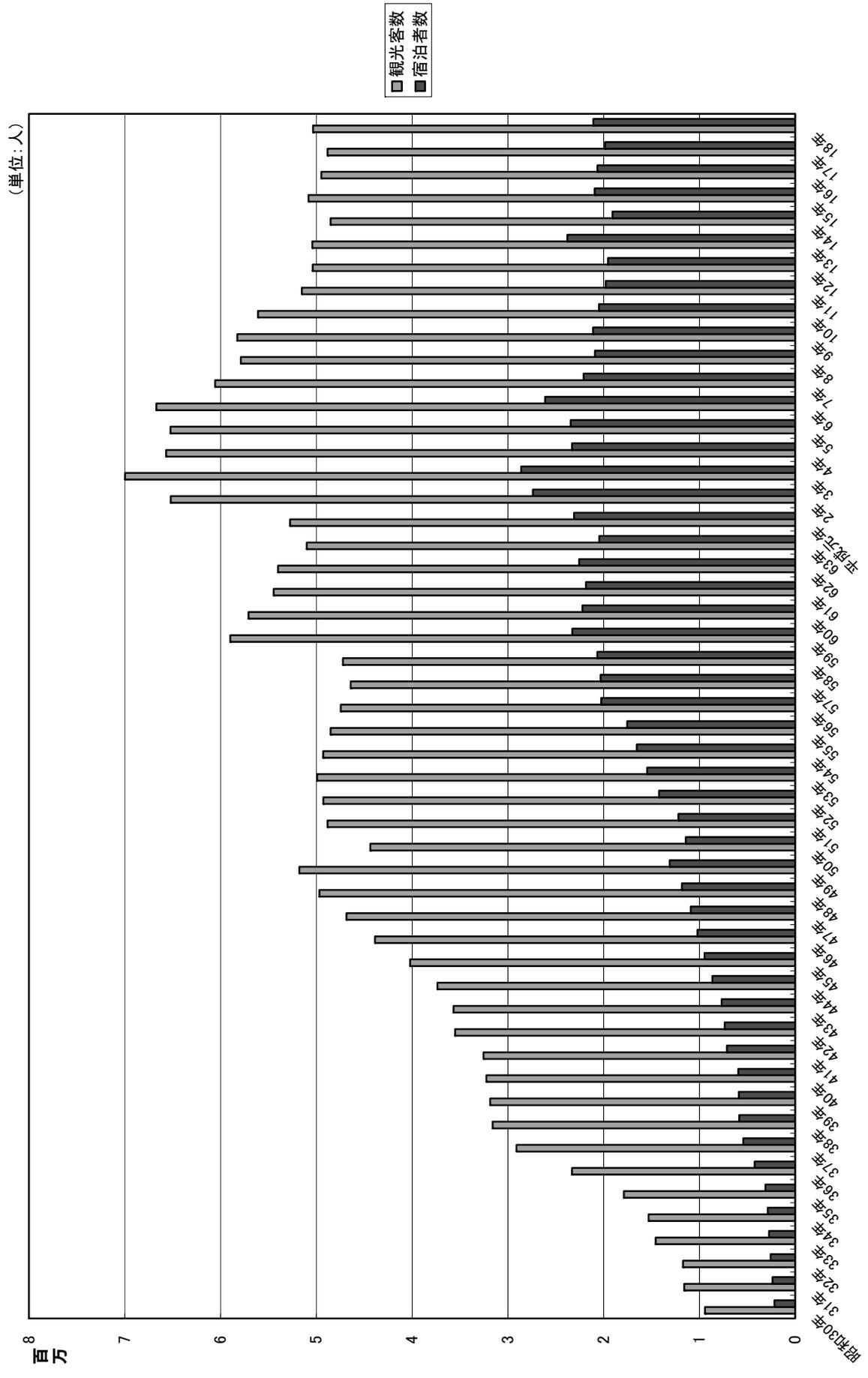


5. 鳥羽市観光統計資料

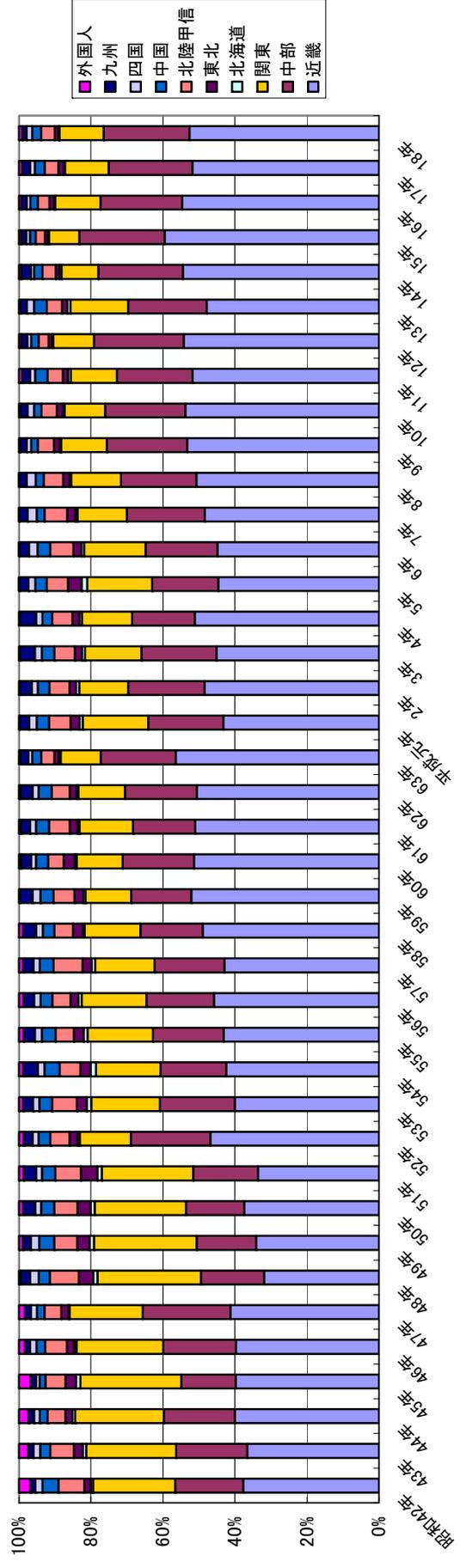
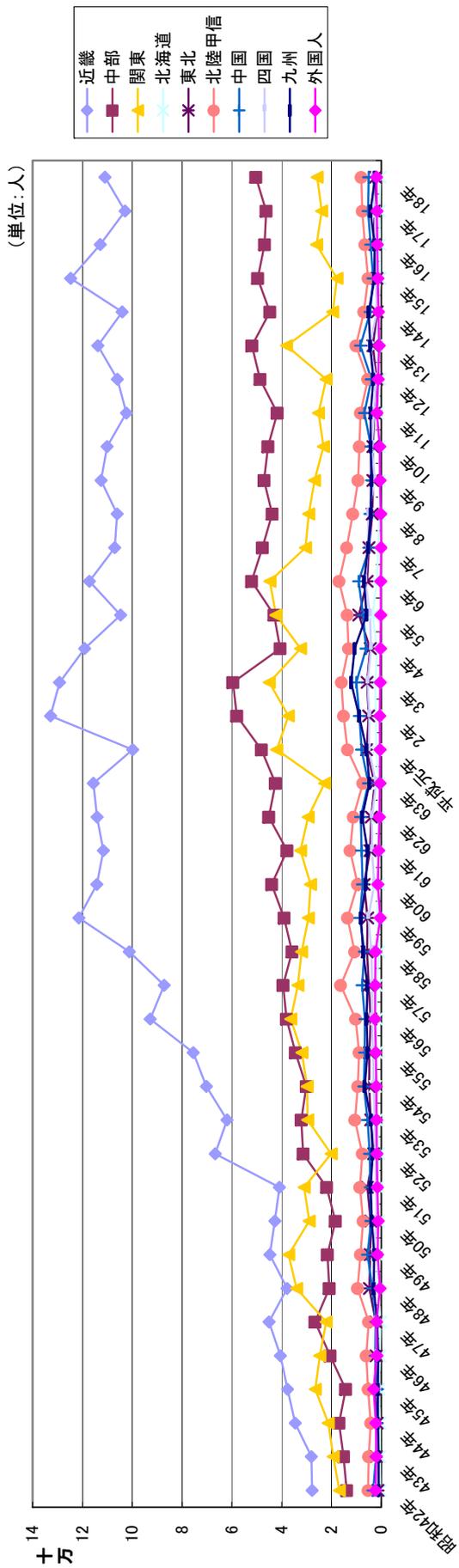
年別観光入込客数および宿泊者数

	観光客数(人)	対前年比(%)	宿泊者数(人)	対前年比(%)	推定消費額(千円)	対前年比(%)
昭和30年	942,782	-	218,224	-	-	-
31年	1,159,301	23.0	237,200	8.7	-	-
32年	1,170,567	1.0	256,176	8.0	-	-
33年	1,457,167	24.5	273,603	6.8	-	-
34年	1,532,000	5.1	286,861	4.8	-	-
35年	1,788,325	16.7	312,560	9.0	-	-
36年	2,330,545	30.3	423,735	35.6	-	-
37年	2,909,371	24.8	540,676	27.6	4,364,000	-
38年	3,158,982	8.6	584,412	8.1	5,337,000	22.3
39年	3,185,521	0.8	588,253	0.7	6,052,000	13.4
40年	3,222,771	1.2	592,989	0.8	6,450,000	6.6
41年	3,255,245	1.0	711,390	20.0	6,510,000	0.9
42年	3,549,000	9.0	737,500	3.7	7,807,000	19.9
43年	3,566,000	0.5	768,500	4.2	7,845,000	0.5
44年	3,736,000	4.8	863,500	12.4	8,219,200	4.8
45年	4,021,000	7.6	947,300	9.7	8,846,200	7.6
46年	4,387,800	9.1	1,020,558	7.7	9,653,160	9.1
47年	4,683,400	6.7	1,091,990	7.0	11,333,800	17.4
48年	4,967,020	6.1	1,184,089	8.4	15,854,485	39.9
49年	5,177,810	4.2	1,311,491	10.8	18,224,556	14.9
50年	4,436,082	-14.3	1,140,998	-13.0	21,295,232	16.8
51年	4,883,343	10.1	1,218,886	6.8	28,172,067	32.3
52年	4,925,005	0.9	1,422,843	16.7	31,247,661	10.9
53年	4,992,214	1.4	1,545,687	8.6	32,799,887	5.0
54年	4,929,414	-1.3	1,655,181	7.1	35,942,043	9.6
55年	4,850,191	-1.6	1,752,057	5.9	39,882,310	11.0
56年	4,744,723	-2.2	2,024,964	15.6	42,650,721	6.9
57年	4,640,089	-2.2	2,031,328	0.3	52,693,883	23.5
58年	4,720,215	1.7	2,065,977	1.7	53,596,144	1.7
59年	5,899,219	25.0	2,328,203	12.7	80,560,795	50.3
60年	5,708,860	-3.2	2,221,521	-4.6	77,543,017	-3.7
61年	5,444,504	-4.6	2,186,106	-1.6	75,511,183	-2.6
62年	5,399,637	-0.8	2,256,033	3.2	73,291,269	-2.9
63年	5,101,032	-5.5	2,046,415	-9.3	67,383,213	-8.1
平成元年	5,273,275	3.4	2,307,497	12.8	85,985,163	27.6
2年	6,519,054	23.6	2,738,166	18.7	103,430,188	20.3
3年	6,998,403	7.4	2,861,342	4.5	127,134,298	22.9
4年	6,568,442	-6.1	2,329,402	-18.6	111,960,226	-11.9
5年	6,522,012	-0.7	2,344,382	0.6	108,713,533	-2.9
6年	6,669,700	2.3	2,611,037	11.4	98,083,546	-9.8
7年	6,055,750	-9.2	2,210,161	-15.4	85,833,162	-12.5
8年	5,787,002	-4.4	2,091,828	-5.4	80,986,469	-5.6
9年	5,824,258	0.6	2,110,609	0.9	78,525,607	-3.0
10年	5,608,287	-3.7	2,047,290	-3.0	73,883,323	-5.9
11年	5,150,571	-8.2	1,978,490	-3.4	69,838,810	-5.5
12年	5,036,587	-2.2	1,954,226	-1.2	66,733,344	-4.4
13年	5,041,276	0.1	2,377,820	21.7	72,515,725	8.7
14年	4,851,382	-3.8	1,907,860	-19.8	62,861,068	-13.3
15年	5,080,877	4.7	2,094,633	9.8	68,436,589	8.9
16年	4,948,783	-2.6	2,064,212	-1.5	68,092,367	-0.5
17年	4,881,587	-1.4	1,985,337	-3.8	67,797,465	-0.4
18年	5,034,203	3.1	2,108,147	6.2	79,865,319	17.8

年別観光入込客数



年別宿泊者数



6. 鳥羽市の祭・イベント一覧

名称	場所	日時	内容
ゲーター祭	神島町	1月1日	元旦の末明に行われる八代神社の神事で、夜明け前にグミの木で太陽をかたどった直径2m程の白い輪(アワ)を島中の男たちが竹で刺し上げ、落とす。「天に二つの日輪なく、地に二皇あるときは世に災いを招く、若し日輪二つあるときは、神に誓って偽りの日輪は是の如く突き落とす」と、邪悪を払い、無事平穏を願う新年のお祭り。
相差獅子舞神事	相差町	1月5日	早朝から天狗と獅子が笛や太鼓に合わせて各戸の玄関先で舞い、その年の悪事災難除け祈願する。
弓祭り	市内各地	1月中	悪霊退散、大漁・海上安全を祈る。本浦町、神島町、安楽島町、石鏡町、菅島町、国崎町、桃取町、答志町、和具、松尾町で行われる。
八幡祭り(神祭)	答志・和具	旧暦1月17日～19日	祭りのクライマックスは「お的」に墨とフノリを練って㊦と書いた炭を奪い合う。炭を手にした男衆たちは、家に帰り戸口や船に大きく書き海上安全と豊漁を願う。
御船祭り	青峯山正福寺	旧暦1月18日	青峯山正福寺は、海上守護の霊峰としてこの地方をはじめ全国各地の漁業者の信仰を集めている。 この日は、相差の海から鯨に乗ってきたという伝説のある本尊の十一面観音が開扉され、境内には信者から奉納された大漁旗が一面に立ち並び、露店も出て多くの参拝者で賑わう。
牡蠣の国まつり	浦村町	2月下旬	特産の「浦村かき」を無料(または低価格)で提供。焼き牡蠣、牡蠣の時雨煮、牡蠣飯など、地元の人達が作った牡蠣料理のほか、かき詰め放題の即売会も行われる。
鳥羽春祭り	大山祇神社 賀多神社	4月上旬	鳥羽の春の訪れを告げる春祭り。大山祇神社と賀多神社の祭日で、土曜日を宵宮、日曜日を本祭りとしている。大山祇神社ではみこしを、賀多神社は能楽を奉納する。能舞台は日本最古の組立式舞台で、県の有形民俗文化財に指定されている。
石神さん春祭り	相差町	5月7日	相差町の地域住民によって毎年開催される、女性の願いを一つかなえるといわれる石神さんの祭り。大漁祈願と大願成就を祈願し、男衆の手による地元料理が出される。 古来から海女が魔よけとして使ってきたドーマン、セーマンをあしらった“お守り”は霊験あらたかと言われ、願いが叶った人達のお礼参りも多い。
ディスクドッグジャパンカップ in 鳥羽	鳥羽中央公園多目的グラウンド	6月上旬	飼い主が投げたディスク(プラスチック製の円盤)を犬が走って追いかけてキャッチすることで得点を競う競技。年間ランキングの上位者のみが集まり、日本一決定戦が開催される。
赤崎祭り(ゆかたまつり)	鳥羽4～5丁目	6月22日	伊勢神宮(外宮)の末社、赤崎神社の祭日で、その昔この地方に流行病が発生した際、家々が難を逃れたという言い伝えから、除厄祈願として毎年例祭日にこの神社の杉の小枝を家々の門戸に吊り下げる習わしが続いている。当日はたくさんの露店が並び、多くの参拝者がゆかたで参拝することから「ゆかた祭り」の愛称で呼ばれている。
伊勢神宮奉納グラウンドゴルフ大会	鳥羽中央公園多目的グラウンド	6月下旬	シニアの人達が気軽に行えるスポーツとして、愛好者が増加しており、市内外から多数の参加者が訪れる。
御潜神事と熨斗あわびまつり	国崎町	7月上旬	「熨斗あわび」伊勢神宮献上2000年の伝統を受け継いできた国崎の祖先と、豊富な魚介類を育ててくれた海への感謝の意を表すまつり。 熨斗あわび作りの実演と共に、漁業組合によるあわびやさざえなどの魚介類の直販を行い、地域への誘客と水産業の振興を図る。 御潜神事は平成15年に130年ぶりに復活。近郷の海女が白い海女着姿海に潜りアワビを捕る。
しろごまつり	菅島	7月11日	ほら貝の合図で磯着姿の島中の海女が一斉に海に潜り、アワビのつがいの初採りを競う。このアワビを白髭神社に奉納し、豊漁と海上安全を祈願する。 最初に採った海女は、その年の海女頭として1年中尊敬を集める。

名称	場所	日時	内容
棒練り	坂手町	7月第2土曜日	当時坂手に疫病が流行ったことがあり、村人たちが津島神社のご分霊牛頭（ゴズ）天王を迎え、疫病よけの守り神として仮社殿を造営しておまつりした。その時の様子を再現しているのが棒練り行事であり、この行事に合わせて「ほらおどり」を奉納することが、現在の演芸として受け継がれ、300年余りの歴史を持つ行事として知られている。
相差天王くじら祭り（青峯参り）	相差町（相差町～青峯山）	7月14日	相差町の町民をあげてのまつり。青峯山正福寺の本尊である十一面観音が鯨に乗って相差へあがった伝説があることから、大小の鯨みこして町中を練り歩いた後、海女たちに担がれて海に入り、夜には花火大会が行われる。また、くじら祭りの成功祈願と海と山の恵みに感謝するため、相差の鯨崎から青峯山へ登ったという「鯨に乗った観音様」伝説を再現し、鯨崎から青峯山まで「鯨に乗った観音様みこし」を担いで登る。
鳥羽・神島カヌートライアル	神島	7月下旬	鳥羽市安楽島町の鳥羽小涌園海水浴場をスタートし、菅島のしろんご浜を経て神島に至る延長16kmのシーカヤッキング。海ならではのカヌーの面白さが人気を呼び、県内外から愛好家が参加する。
鳥羽みなとまつり大会	佐田浜第1駐車場及び周辺	7月第4金曜日	鳥羽港佐田浜を舞台に繰り上げられる夏の祭典。九鬼神水軍太鼓の演奏や海上パレード、約3000発の海上花火大会を開催。また、金刀比羅宮の例大祭でもあり、子供奴行列や、海上渡御・陸上渡御も行われる。
鳥羽ビルフィッシュトーナメント	鳥羽湾基地とする沖合	7月下旬	全長3m以上もあるカジキを釣り上げる大会。鳥羽湾から出航したクルーザーは伊勢湾から大王崎沖一帯で競技を繰り広げる。
ミナサマール 答志島	答志島	7月下旬～8月下旬	夏休み期間中に答志島旅館組合などが主体となって、魚のつかみ取り大会やナイトクルージングなどが行われる。
夏の鳥羽湾毎夜連続花火大会	佐田浜小浜安楽島	7月下旬～8月下旬	鳥羽旅館事業協同組合による事業で、毎夜20時30分から約5分間花火が打ち上げられる。花火にあわせて、ナイトクルージングが行われるなど、鳥羽の夏の夜の風物詩として定着している。
志摩加茂五郷の盆祭行事（火柱祭り）	河内町	8月15日	鉦や太鼓、ほら貝を用いた素朴で勇壮かつ幻想的な祭。文禄の役の戦死者を弔ったのが始まりとされ、クライマックスには火柱祭りが行われる。国の重要無形民俗文化財に指定されている。
観光地映画祭 in とば 潮騒フェスティバル	鳥羽及び神島	9月下旬	過去に5作が制作された映画「潮騒」（三島由紀夫原作小説）をテーマとした映画祭。映画上映のほか、地元の高校生や市民団体によるミニコンサートが行われる。また、実際に神島に渡ってのロケ地巡りも行われる。
ネイチャーアイランド神島	神島	10月上旬	神島では、毎年秋になると南国に渡る蝶「アサギマダラ」や小型の鷹「サシバ」を観察することができる。このサシバは、渥美半島から神島、答志島の上空を飛び、鹿児島県から台湾まで移動すると言われている。またアサギマダラもよく似たコースをたどり、愛知県渥美町伊良湖岬でマーキングされた蝶が鹿児島県喜界町で確認された例もある。
南鳥羽海の体験まつり	浦村町石鏡町国崎町相差町千賀町海の博物館鳥羽展望台	10月上旬～下旬	網に入った魚を浜辺で威勢良く曳き寄せる「千人地曳網体験」や、鮮魚・旬の伊勢海老の格安販売などがある「うまいもん王国まつり」など、南鳥羽を舞台に開催されるイベント。期間中は、各地区で様々な体験イベントが開催される。
鳥羽魚魚まつり	近鉄鳥羽駅前	10月上旬	市内の板前さんによる魚の早さばきコンテストや、新鮮な魚介類の販売等が行われる。鳥羽の新鮮な魚介類を広く観光客に知らしめるためのイベント。見る、食べる、嗅ぐ、聞く、触れるという五感の旅の一環。
鳥羽クラフト展	鳥羽市民の森公園	10月中旬	全国から多くのクラフトマンが集まり、竹・木工、陶芸、革製品、鉄工芸、ガラス工芸、染め物、彫刻など様々な作品の展示即売が行われる。
やったらんかい 嘉隆まつり	鳥羽マリンパーク周辺	11月上旬	戦国時代の鳥羽城主・九鬼嘉隆にちなんだイベント。第15回目となる平成19年をもっていったん休止となった。

名 称	場 所	日 時	内 容
うまし国水産まつり	海の博物館	11月中旬	鳥羽志摩海域で捕れる鮮魚（鯛、アジ、ハマチ、カワハギ、伊勢海老、牡蠣など）、水産加工品（アラメ、ヒジキ、トコロテン、アオサ、シラスなど）の格安販売やセリ市が行われる。 当日は海の博物館が入館料無料で開放される。
二船祭り	国崎町	11月23日	海士潜女神社の祭礼として行われる神事。国崎の海間谷地区と里谷地区の青年男子が5人ずつ2隻の船に分かれて乗り漕ぎ競う。海の恵みの豊漁が祈願され、里谷が勝てばボラが、海間谷が勝てばイワシが多く獲れると伝えられている。

通年行事

名 称	場 所	日 時	内 容
真珠婚式	鳥羽国際ホテル	毎月30日 (2月と12月を除く)	明治時代に御木本幸吉が世界で初めて真珠の養殖に成功した地として知られている鳥羽。彼の成功の陰には妻うめの支えがあったからだとされている。 日本では結婚25年目の「銀婚式」や50年目の「金婚式」がよく知られているが、30年目の結婚記念日は「真珠婚」と呼ばれている。 養殖真珠発祥の地である鳥羽では、結婚30周年を迎えた夫婦を迎え、メモリアルとしての時間を過ごしていただくと共に、ふたりの精神的な絆を確認しあい、家族と共に喜びを分かち合うイベントとして「真珠婚式」を実施。 子供や孫を連れた家族旅行を兼ねての参加という夫婦も多い。また、私たちのライフスタイルの中に「真珠婚」を祝う文化を根付かせ、新たな旅の需要を掘り起こすと共に、「真珠婚のまち・鳥羽」のイメージづくりと、そのためのまちづくりを併せて推進する。
鳥羽のおいしいハイキング	市内各地	毎年春と秋に各6回実施	毎年春と秋に実施される鳥羽ガイドボランティアによるウォーキングイベント。毎回それぞれのコースにちなんだ「ふるまい鍋」が提供される。
赤いハンカチ	鳥羽港周辺	随時	鳥羽港に入港する大型客船の出港に際し、船の乗客とそれ見送る鳥羽市民が赤いハンカチを振りあい再開を約束するセレモニー。御木本幸吉にちなんだ、もてなし事業の一環として実施。 これまで、飛鳥Ⅱやアマディア、オイローパ、ぱしふいっくびいなす、ハンセアティックなどの大型船が入港した。
鳥羽しおさい市	鳥羽マリンパーク周辺	毎月第2・第4土曜日	地元で採れた新鮮な海産物や農作物を、地元住民や観光客を対象に販売。午前7時30分～午前10時00分。